

平成 25 年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 松原市

実践研究校名 松原市立天美南小学校

【公開授業】 公開日：平成 25 年 11 月 22 日

対象学年：5 年生

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 (单元名) Lesson 5 What do you like?	(本時の指導の目標) 交流という具体的な場面で自分の聞きたいことを英語で話す。 はじめて出会う留学生と英語を通してコミュニケーションする楽しさを実感する
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・留学生も含めたアクティビティ
- ・グループに分かれて留学生へのインタビュー
- ・日本の文化を紹介するゲームの工夫

(授業後を終えた教員の感想)

- ・留学生との交流では、コミュニケーションを積極的に行うことで「英語って楽しい！」と思える取組にしたいと考えた。子ども達が学んできたことを生かせる場を持つ必要性がある。その中で、通じたという喜びと達成感を子ども達に感じさせることをめざした授業でした。
- ・留学生から
英語を一生懸命努力して話している事が伝わってきた。
身振りや手振りを交えて伝えようとしているのがよく分かった。

【研究協議会】

(テーマ) 「小学校外国語活動における生活化」 ・子どもたちの意欲を高める場面設定のあり方 ・地域人材を活かした取り組みの進め方 ・小中連携 3 年間の成果と課題	(指導・助言者) 大阪教育大学 吉田晴世教授 大阪教育大学 鄭京淑先生 松原市教育委員会 指導主事
---	--

(研究協議会で出された意見)

- ・耳から入ったものをリズムで覚えるということができていた。日ごろの授業の成果である。
- ・相手の立場に立って、異なる文化を理解し、お互いに考えや思いを伝え合い共感できた。

- ・子どもたち自身が英語でコミュニケーションを図ることが本当に楽しいことだと感じる事ができた。

グループ討議から

- ・様々な機会を持つことが大切である。留学生を呼ぶこともそうだが、コミュニケーションの手段として、言語能力を高められるよう、人とやりとりできる場をどんどん設けていく必要がある。
- ・「誰かに聞いてもらうこと 見てもらうこと」が大切だと感じた。他者からの評価から自己肯定感や達成感を得ることが大切である。
- ・視覚の工夫が大切であると同時に、英語を使用しなければならない目的意識と場意識の設定の仕方を工夫していく必要がある。

(まとめ)

1. いろんな人との相互理解を深める手段として、日常生活の中で外国語を取り入れられるようにするため、低学年から英語の機会を増やし、学校生活の中で、自然に外国語にとかわる工夫をこれからも継続していきたい。
2. 指導する側が、英語で指導することによって、すぐに分からなくても子どもたちが推測して考える。これがとても大切である。
3. 英語を通して、自分を表現し、他の人と協力し、積極的に相手に伝えようとする意欲を持つことができた。